

【巡る水】

福岡県

筑陽学園中学校

三年

小島

夢華

春、草花が芽吹き生命が誕生する。夏、新緑が映え著しく生長する草木。秋、生命の鼓動が小さくなり冬支度を始める。冬、様々な物が眠りにつき来年に備え始める。そうして四季はくり返し、もたらすのは恵みか厄災か。

自然は私たちに様々なものをもたらしてくれる。それは、美しい季節であったり、水や食料などの資源であったりする。しかし、全てが良いことばかりではなく、地震や水害などの自然災害を引き起こす一面もある。

そうした自然の中でも最も私たちと関係が深いのは「水」だろう。「水の惑星」と呼ばれる地球は、その名の通り水が多い。雨が降りすぎると川の水が溢れ、水害が起こる。しかし、降らなすぎても干害が起こるためバランスが難しい。その一方で、飲み水やお風呂、洗濯など生活に欠かせない存在でもある。水がなければ、植物は育たないし、人間や動物は生きていけない。

「水」について考える上で欠かせない二人の人物がいる。まず、中村哲さんだ。中村哲さんは、福岡県朝倉市の山田堰をモデルにした灌漑設備によって、アフガニスタンの人々の健康を守ろうとした医師だ。二〇〇の診療所より一本の用水路」を唱え、アフガニスタンの人々の健康を「水」によって、守ろうとした。

私は母と、福岡県朝倉市にある山田堰を見に行ったことがある。昔の人々の知恵が朝倉の人々の命を守り、後には中村哲医師の手によって、アフガニスタンの人々の命を救ったのだった。中村哲さんの功績を知り、彼が「水」によって人々の命を救おうとしたことに感動した。

山田堰で中村哲さんについて学んだときに、もう一人の人物のことを思い出した。それは、私が幼稚園生の頃に住んでいた台湾という地域で、中村哲さんと同じように、用水路を建設し、現地農業の基盤を作り出した八田與一さんだ。台湾で不毛の大地と呼ばれた嘉南平原がある。八田與一さんは、当時東洋一の規模である「烏山頭ダム」と総延長一万六千キロメートルに及ぶ

給排水路を完成させた人物だ。その功績で、嘉南平原は台湾一の穀倉地帯となった。台湾に住んでいるときにアニメ映画を見て、八田與一さんのことを知った。幼いながら、「水」の大切さを思い出した。

私は中村哲さんと八田與一さんの功績から、水が無駄なく有効に使うことで、人々の生活と健康を守り、命を救うことができるのだと知った。そして、水は生命の源であると感じた。水は時には命を奪う恐ろしい災害を巻き起こす。しかし、それ以上に、私達の生活に欠かせない資源でもある。私達は、今こそ先人たちが残した学びや知恵を生かして、自分たちの生活を守っていかねばいけない。私は水の無駄使いを減らし、身近にある自然を守ることで未来へつなぐ「水」を守っていききたいと思う。私一人でできることは小さな事かもしれないが、これから水の大切さを伝え、有効に利用することで私達と私達につながる命を守っていききたいと思う。

春、水がなければ生命が誕生することはない。草花が芽吹くことはない。夏、草木の生長は見られず趣がなくなってしまう。秋、冬も同じようにその季節特有の美しい風景を見られなくなってしまう。私たちの住む日本の景色を守るためにも水は欠かせない。水の力を信じ水を大切に受け継いでいくことが必要である。みなさんも水の価値について考えてみてはいかがだろうか。